福山大学　人間文化学部 心理学科　2020年度 自己点検・評価書

基準1.　理念・目的

領域:　使命・目的、教育目的

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中長期計画	・保健医療、教育・福祉・医療・産業・司法のキャリア・パスに基づき、心理学の基礎と応用の知識を身につけること、科学的な思考、プレゼンテーション、論文作成の技術と知識や技術を日常生活や社会にいかすスキルを獲得すること、知識を自分のキャリアに結びつけ、科学的に探求する態度を身につけることを目標とする。 ・心理学基礎教育を礎に、対人援助が必要な領域で活躍できる人材または大学院での研究をめざす人材を育成する。 ・心理学の国家資格化(「公認心理師」)に対応できるカリキュラム構成を維持し、国家試験対策の準備も進める。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	福山大学の教育理念である「人間性の尊重と調和的な人格陶冶」にもとづき、初年次教育から学生自身の心の成長を促し、対人援助を通して人間力の向上を目指している。
年度目標	公認心理師の国家試験の内容や養成カリキュラムを吟味し、大学および学部の理念目的に沿った学科の理念目標を再検証する。
年度報告	実習検討ワーキンググループを中心として、公認心理師の養成カリキュラム案について検討し、学科会議等で検討したが、公認心理師の養成カリキュラム、理念目標については引き続き検討していく必要がある。
達成度	A
改善課題	養成カリキュラムの内容整備や、学生の学修達成状況をふまえた学科の理念目標について継続して検討していく。
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②学科会議議事録 ③実習ワーキンググループ会議記録
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	公認心理師に対応した教育目標を設定している。
年度目標	現状を維持しつつ、公認心理師以外を目指す学生の教育目的についても明確にしていく。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	一般企業に就職する学生の教育目的について検討する。
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	社会が公認心理師に求めている要請に対応できるよう検討している。
年度目標	保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働の各領域で心理師に求められる知識や技能を検討する。
年度報告	公認心理師養成に関わるカリキュラムや実習先の情報を学科で共有し、公認心理師に求められる職務、知識、技能についての理解を深めた。
達成度	S
改善課題	特になし。
根拠資料	①学科会議議事録 ②実習ワーキンググループ会議録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	学科会議を通して、学科の教職員が共通理解を持っている。
年度目標	学科の使命、教育目的の明確化について学科FDを実施する。
年度報告	学科の使命や教育目的について教員の共通理解が深められるよう、2020年度は卒業研究および課題実習の評価方法や行動調査票未回答者への対応などに関するFDを実施した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学科会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 学内外へ公表し、周知していますか。**
現状説明	学生便覧、学科のHPに公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②学科HP ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 中長期的計画に反映していますか。**
現状説明	教育目的を履行できるよう反映させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	現状を維持
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 三つのポリシーに反映していますか。**
現状説明	教育目的は三つのポリシーに反映している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	現状を維持
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②学科HP ③大学要覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。**
現状説明	公認心理師カリキュラムに適した組織構成となっており、整合性はとれている。
年度目標	学科と研究科の演習・実習を見据えた教育研究組織を検討する。
年度報告	学科と研究科の演習・実習が連動するよう教育研究組織を検討した。
達成度	A
改善課題	学科と研究科の演習・実習がスムーズに連動するような教育研究組織の在り方を引き続き検討する。
根拠資料	①2020年度学生便覧 ②学科会議議事録 ③実習ワーキンググループ会議録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

基準2.　学生

領域：　学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中長期計画	学生の受け入れに関しては、今後さらなる効果的な広報活動を検討していく。具体的には、教員各自が教育、研究、学生指導、社会貢献を果たすこと、そしてその結果をマスコミ、大学ホームページ、学長室ブログおよび学科ブログや、年数回発行する「心理学科NOW」で公表することを通じて、心理学科の魅力を伝える。また、学生による教育、研究、社会貢献活動も活性化を図り、学生を成長させることで教育成果を社会に発信して、高校生や進路担当者が心理学科の魅力を感じて、オープンキャンパス等に参加して体験し、受験へ結びつけられるよう努力する。さらに、国家資格である公認心理師は学生募集に関係が深いため、定員を増加しても充足できるかについて継続して検討していく。 　また、学生の支援等については、大学の理念・目的に沿って学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることを可能にする仕組み及び組織は、本学の教育理念に基づいて整えられ、心理学科全教職員が学生支援に努めている。そのツールとしてポータルシステムの「ゼルコバ」を基軸としている。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-1. 学生の受入れ**
点検項目	**① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。**
現状説明	アドミッション・ポリシーの点検は毎年学科会議で実施している。またその内容について、学生要覧、学科のHPに公表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科ホームページ ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。**
現状説明	アドミッション・ポリシーに沿った学生をAO入試や推薦入試で受け入れられるよう，ルーブリック内容も含めて，学科会議で検証している。オープンキャンパスや高校生の大学案内などでは，学科の学びの特徴を説明している。
年度目標	昨年度改訂した総合型選抜評価票のルーブリックを実施・検証し、必要な修正を検討する。
年度報告	総合型選抜評価票のルーブリックについて学科で検討を行った。
達成度	S
改善課題	総合型選抜の評価基準に関して継続して検証する。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。**
現状説明	学科会議で検証し、原因の分析に努めている。
年度目標	現状を維持
年度報告	公認心理師への関心は高く，オープンキャンパス参加者もコロナ禍ではあったが多数であった。また，入学者の歩留まり率の変化について，学科で意見を共有し，今後の対策に活かしていくことになった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❹ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。**
現状説明	50名の定員に対し、2016年度から継続して学生数の確保ができている。
年度目標	現状を維持
年度報告	昨年度に引き続き入学希望者が定員を超えている。ただし，入学手続き者の歩留まり率の変化には注意が必要である。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-2. 学修支援**
点検項目	**① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。**
現状説明	学修体制の整備のため教員と職員が協働して、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに基づいてカリキュラムやカリキュラム・マップを作成し、必要に応じて見直しを図っている。学修時間と単位数の関係など、修学に必要なことを学生便覧や教務の手引きで学生に周知している。
年度目標	学外への公表について検討する。
年度報告	学生便覧や教務の手引きで学生に周知した。
達成度	S
改善課題	現状維持
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。**
現状説明	心理学実験や心理学統計法など、学生にとって困難である実習・レポート作成の支援にTAを活用している。また教養ゼミと基礎ゼミにおけるアクティブ・ラーニングなどにSAを活用している。
年度目標	TA、SAが必要な科目の更なる検討。
年度報告	3・4年生を中心に活用を行った。ただし，コロナ禍のため，前期は十分に実施できなかっ
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②SA経費計画調書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-3. キャリア支援**
点検項目	**① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。**
現状説明	1年次必修科目として「キャリアデザインⅠ」を開講し、入学時の段階から将来の進路選択に対する意識を持たせている。2・3年次では選択科目に「キャリアデザインⅡ」および「キャリアデザインⅢ」を設置し、インターンシップへの参加も促している。また、心理学科カリキュラムの1年次配当科目として「心理学とキャリア」を配置している。インターンシップへの参加者は2018年度9名から、2019年度28名(3年生13名、2年生13名、1年生2名)と大幅に増加した。しかし1年生の参加はまだ少ないのが現状である。
年度目標	インターンシップへの参加者の増加。
年度報告	インターンシップへの参加者は2018年度9名から，2019年度28名と大幅に増加していたが，2020年度はコロナ禍の影響もあり，7名のみの参加であった。
達成度	A
改善課題	2021年度は感染症の状況が改善すれば，再び参加増となるよう促したい。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	今年度の参加者減はコロナ禍の影響によるものと考えられる。2021年度は状況が改善すれば，再び参加増となるよう促したい。
点検項目	**❷ 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。**
現状説明	自己点検時に資料を収集し、就職委員を中心に検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	現状維持
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。**
現状説明	3年次に「心理学検定」の資格取得支援のため 、受験料の補助を受けている。また、「心理学検定」については2年次の「基礎ゼミ」で学習支援を実施している。これらの支援体制整備の結果、合格率は52.1%（3年生のみであれば43.3%）と前年度を上回っている。
年度目標	合格率向上を目指した基礎ゼミ、授業での支援体制の継続。
年度報告	今年度はコロナ禍の影響により、心理学検定が中止となった。また、夏休み実施の心理学検定に向けた従来の基礎ゼミ、授業での支援は、前期が遠隔授業のみの実施となり、十分にはできなかった。
達成度	A

改善課題	来年度は心理学検定がコンピュータを導入した検定として再開予定となった。そのため、受検に向けた基礎ゼミ等の授業での支援体制も再開していく。
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	来年度の心理学検定は再開予定のため、受検に向けた基礎ゼミ等の授業での支援体制も再開していく。
点検項目	**❹ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。**
現状説明	3年次から就職ガイダンスが実施され、就職委員を中心に指導を行っている。大学主催の学内ガイダンスへ学科長や就職委員が出席している。学科内で卒業生および4年生内定者の就職体験発表会も実施している。学科別進路状況を随時把握して、就職委員会で検証されている。2019年度の就職内定率は93.3%（3/8時点）であった。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。2020年度の就職内定率は100%（3月末）であった。
達成度	S
改善課題	現状維持
根拠資料	学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-4. 学生サービス**
点検項目	**❶ 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。**
現状説明	入学時に本学の奨学金を獲得している学生に対しては、奨学金継続のための成績維持を個別面談を通して支援している。また、日本人学生、留学生ともに外部団体による奨学金について、随時担任を通して学生に情報提供し、書類作成等において支援をしている。その結果、ここ数年心理学科の学生は、小松育英会給付奨学生に採択されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	現状維持
根拠資料	①学科会議議事録 ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。**
現状説明	福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドラインが制定され、相談窓口として学部にハラスメント相談員を2名配置している。一連の手続き等は大学のHPに掲載されており、1年生のオリエンテーション時に学生たちに周知されている。心理学科では、毎回学科会議の終わりに「気になる学生」についての情報共有を行い、担当者が一人で抱え込まないように、全体で適切な対応法を検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。**
現状説明	大学で実施する課外活動については、各学年のゼミ時に学生に周知している。また、福祉・教育領域の学科に募集がくる課外活動についても、ゼルコバや掲示板で周知し、積極的な参加を勧めている。ゼミ単位での課外活動も活発に実施している。ゼミ単位の課外活動である「サイバーパトロール」に対し、広島県警から感謝状が授与された。「少年サポートルームふくやま」における非行少年等の学習支援や立ち直り支援に参加した犯罪心理学研究室の学生が、広島県警本部生活安全部少年対策課の推薦を受け、「模範青少年」として表彰された。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-5. 学修環境の整備**

点検項目	**① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。**
現状説明	建物等の設備は大学全体の点検に従っている。廊下へは什器類など設置せず出入口と非常口が確保できるようにしている。また、廊下等の業者委託部分以外は、清掃担当を明確にして、各教室内の整頓、ゴミを長期間放置しないなど安全・衛生面指導を徹底している。さらに、猪やカラスなどの野生動物がゴミを荒らさないよう、食べ残しなど食物の残飯などは、夜間に外部に放置しない、ゴミ箱に独自のフタを設けるなど独自の工夫をしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。**
現状説明	統計や心理学実験を中心に29号館のパソコン室及びICT教室を使用している。また、教養ゼミでは図書館での文献検索を授業に取り入れている。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、授業形式に変更はあったものの、各講義で29号館パソコン室を使用した。教養ゼミでは、オンラインによる図書館データベースガイダンスを実施し、図書館もしくは家庭で文献検索ができるような取り組みを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①セレッソのコースニュース
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。**
現状説明	学科独自のバリアフリー化は難しいが、助手およびSIP29の学生が主体となり、ウォールペイント、花壇、館内表示など環境整備を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	新型コロナウイルス感染症感染拡大を受け、学生の登校頻度が低下したため、教員が中心となり環境整備に取り組んだ。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。**
現状説明	パソコンを使用する授業のために、29号館パソコン室の整備を行っている。しかし、入学者数の増加にともない、29号館のパソコン室及びICT教室での実施が困難な実習授業もあらわれはじめている。そのため、BYODで普通教室でもICT教室と同等の内容で授業を実施できるように什器・機器類の導入を検討している。また、29号館内に大人数が収容できる教室及びアクティブ・ラーニングができる教室がないため、教室確保が難しい状況も生じている。
年度目標	・学科会議で適宜検討する。 ・学部生の演習・実習授業に支障がないよう、23号館の施設整備を進める。 ・BYODで普通教室でもICT教室と同等の内容で授業を実施できるように什器・機器類の予算要求を計画していく。
年度報告	学部生の演習、実習授業に支障がないよう23号館の施設整備を進めている。 普通教室でもICT教室と同等の内容の授業を実施できるよう令和2年度の教育等用機器要求書でワイヤレスポータブルスピーカー一式を申請し、こちらの施設整備も計画通り進めている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①令和２(2020)年度教育等用機器要求書、②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❺ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。**

現状説明	建物等の設備は大学全体の点検に従っている。室内の備品は書架など転倒防止を行い、廊下へは什器類など設置せず出入口と非常口が確保できるようにしている。また、消防用の非常用侵入口周辺に大型什器を設置せず、緊急時に備えている。電気火災防止のための清掃、冬期のストーブ等の持ち込み禁止など、火災の原因となることを回避している。定期的に学生にも参加してもらい、火災予防や環境整備のための清掃を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❻ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。**
現状説明	29号館内に劇物・危険物はないため、管理システムの整備はしていない。何か問題が生じた場合には、MLでの全体への発信、学科会議等で情報を共有して対処していく体制は整えている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❼ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。**
現状説明	全学の方針に従っている。安全管理に関するマニュアルを配布し、毎年実施されている避難訓練に学生が参加するよう各ゼミの担当者が指導している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録、②避難訓練実施後アンケート結果
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**2-6. 学生の意見・要望への対応**
点検項目	**① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。**
現状説明	全学年で年間を通じて複数回のゼミ担任による個別面談を実施し、学習支援に関する学生の意見や要望を聞いている。学科会議の終わりには、学生に関する情報共有を毎回行い、そこで出た要望等は学科会議で分析、検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録、②学生カルテ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。**
現状説明	全学年で年間を通じて複数回のゼミ担任による個別面談を実施し、心身に関する健康や経済的支援の必要性について確認し、必要に応じて保健管理センター（看護師、心理士）の利用を勧めている。また心理学科では、毎回学科会議の終わりに「気になる学生について」情報を共有し、全体で対策を検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	個別面談時の意見収集をし、学科会議で情報共有及び対策の検討をしている。毎回学科会議の終わりに「気になる学生について」情報を共有し、全体で対策を検討している。また、学生による学生のサポートが機能するように、SA、TA、学生サポーターの活用についても学科会議で検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

基準3.　教育課程

領域：　卒業認定、教育課程、学修成果

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中長期計画	人々の心の健康の保持増進に寄与するために、心理支援を念頭に置いて、人間の心のはたらきや行動について総合的に教育する。保健医療、教育、福祉、司法・犯罪、産業・労働等の諸分野で、心理学の専門的知識と方法を応用できる地域の中核的役割を担う人材や、公認心理師として活躍する人材を育成することを目的とする。 学科の卒業判定については、ディプロマ・ポリシーに基づき作成された学科独自のルーブリックを用いて卒業研究の評価を行う。また、教育課程については、アセスメント・ポリシーを用いて評価を行い、必要があれば教育課程を改善する。学生個人の卒業時における学修成果については、学科独自の「心理学検定」の結果を用いて、心理学の基礎的知識の修得を検証する。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーを学生便覧および大学ホームページを通じて周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#d ②2020年度学生便覧 p.70
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準（ルーブリック等の評価指標を含む）等を、学科会議における全教員による審議及び学科FDで策定している。それらは、学生便覧や大学ホームページ・シラバスへの記載で周知している。毎年度、卒業論文をルーブリックを用いて評価・点数化も行っている。新年度オリエンテーション時には、学生に関連資料を配布し、各基準の説明も行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/ ②2020年度学生便覧 pp.70-72, p.76 ③2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	単位認定基準はシラバスに、進級基準及び卒業認定基準は学生便覧に記載している。それらは新学期オリエンテーション時にも学生に周知している。また学科会議で厳正な適用を検証している。
年度目標	現状を維持

年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/ ②2020年度学生便覧 pp.70-72, p.76 ③2020年度シラバス
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**3-2. 教育課程及び教授方法**
点検項目	**① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。**
現状説明	カリキュラム・ポリシーは学科FDや学科会議の審議を通して策定し、学生便覧及び大学ホームページで周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#c ②2020年度学生便覧 pp.70-71
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。**
現状説明	ディプロマ・ポリシーに沿ったカリキュラム・ポリシーを作成し、一貫性がある。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#c ②心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#d ③2020年度学生便覧 pp.70-71
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。**
現状説明	学生が段階的かつ体系的に共通教育科目や心理学の専門教育科目を履修し、目標を達成できるようカリキュラム・ポリシーに沿って、体系的に学べる教育課程を編成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#c ②心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#Curriculum-map-psychology ③2020年度学生便覧 pp.70-71, pp. 73-75
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。**
現状説明	全学の方針に従っている。カリキュラムマップにも教養科目を明示し、シラバス等にも事前に学んで欲しい科目として明記するなど、教養教育と専門教育の連動について伝えてい
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/#Curriculum-map-psychology ②2020年度学生便覧 pp.59-62, pp. 73-75
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。**
現状説明	アクティブ・ラーニングやICTの活用される授業が複数ある。また、新たな工夫や開発がなされている授業について、学科教員間で情報共有している。
年度目標	引き続き、教授方法の改善や工夫を行う。
年度報告	教授方法を工夫・開発した遠隔授業が複数あった。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①2020年度シラバス ②学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/42575/ ③学長室ブログ https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/46215/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。**
現状説明	心理学の基礎と応用の知識を身につけること、科学的な思考、プレゼンテーション、論文作成の技術、心理学の知識・技術を日常生活や社会にいかすスキルを獲得することなどで卒業を判定しており、ディプロマ・ポリシーと整合性がとれている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①心理学科HP https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology-policy/ ②2020年度学生便覧 p. 70, p.75 ③2020年度「卒業研究」シラバス
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部 心理学科

中点検項目	**3-3. 学修成果の点検・評価**
点検項目	**① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。**
現状説明	全学および学科のアセスメント・ポリシーを考慮にいれつつ、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法をシラバスに記載している。それらの適切性はシラバスチェックで検証している。また、学修成果の点検・評価には、修得度アセスメント表によるレーダーチャート評価も活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度シラバス ②2020年度人間文化学部心理学科シラバス点検シート ③資質(中項目)修得度 https://cerezo.fukuyama-u.ac.jp/ct/course_557758
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。**
現状説明	授業アンケートで学修指導・成果の評価結果を教員及び学生にフィードバックしている。報告書を以て、各教員が次年度の学修指導の改善につなげている。また、学科会議等で優れた学修指導についての情報交換をしている。 アセスメント・ポリシーに基づき、学習成果レーダーチャートを用いて学生の学修成果の点検・評価および学部教育プログラムの点検・評価を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2020年度授業評価アンケート及び結果に対する報告書 ②2020年度学科教育プログラム点検・評価報告書 ③資質(中項目)修得度 https://cerezo.fukuyama-u.ac.jp/ct/course_557758
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部 心理学科

基準4. 教員・職員

領域: 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2020年度 人間文化学部 心理学科

中長期計画	心理学科は基礎心理学及び応用心理学，臨床心理学と幅広い領域の心理学を担当できる教員で構成されている。それぞれの分野の研究を志向するとともに（科研費は全員応募）、教育にも熱意を持ち（授業評価は全学平均を上回る）、フィールドでも学生を指導できる教員を採用するようにしている。また、学内の役職にも就き校務にも積極性を持つ教員を採用し（学長、学部長、研究科長、入試委員長等を輩出してきた）、心理学科のみならず人間文化学部や大学全体の将来を担える人材を募集している。 今後は国家資格公認心理師のカリキュラムに対応できる教員を採用していく。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**4-1. 教学マネジメントの機能性**
点検項目	**① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。**
現状説明	心理学科の教育は、学長のガバナンスのもとに、学科長が開催する学科会議で審議・決定している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。**
現状説明	心理学科では毎年教育・運営に必要な仕事について、全教員及び職員で役割分担できるよう学科会議で審議・決定している。
年度目標	必要に応じて、役割における責任の明確化を学科会議で検討する。
年度報告	年度初めの学科会議で、役割分担の確認を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。**
現状説明	2名の職員を学科の仕事に主に従事する者と、学科附属こころの健康相談センターに主に従事する者に分け、教学マネージメントの機能性を高める努力をしている。
年度目標	役割の明確化ができているか適宜学科会議で検証する。
年度報告	年度初めの学科会議で、役割分担の確認を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**4-2. 教員の配置・職能開発等**
点検項目	**① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成（性別、年齢、職階等）となっていますか。**
現状説明	心理学における各専門領域における教育目的に即した資質を有する教員が配置できている。また、性別・年齢は適切な構成となっている。
年度目標	心理学科の適切な運営に繋がる職階構成を目指す。
年度報告	2020度より、講師1名増員、准教授が教授、助教が講師に昇進した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。**
現状説明	確保されている。

年度目標	2019年度より大幅にスタッフが入れ替わったため、資格養成機関に求められる教員数の確保が出来ているか綿密に検証する。 2020年度より、公認心理師養成にかかわる実習担当教員を1名増員する。
年度報告	2020年度より、公認心理師養成にかかわる実習担当教員を1名増員した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。**
現状説明	学科独自のFDを年に複数回実施している。
年度目標	現状維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**4-3. 職員の研修**
点検項目	**① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。**
現状説明	学科独自には実施していないが、学科FDに助手も参加しており、全学FD/SDに参加するようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。**
現状説明	教務関係はゼルコバ、セレッソを、学科会議等はoffice365を活用している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**4-4. 研究支援**
点検項目	**① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。**
現状説明	授業以外に大学運営に関わる業務に時間を取られている教員が多く、研究時間が確保されているとは言い難い。研究室の施設環境も整備されているとは言い難い。また、耐用年数を超えた研究機器や研究用のデスクトップパソコンが複数ある。
年度目標	2019年度および2020年度からの教員の研究環境に関する情報収集をし、研究環境整備について予算化していく。特に、中長期整備計画を立てた機器（アイトラッキングシステム一式：No. 心理学科-2018-01，基礎医学用研究システム：No. 心理学科-2018-02）を中心に予算要求を計画していく。
年度報告	中長期整備計画を立てた機器（アイトラッキングシステム一式：No. 心理学科-2018-01，基礎医学用研究システム：No. 心理学科-2018-02）を中心に予算要求をし、採用された。
達成度	S
改善課題	耐用年数を超えた研究機器や研究用のデスクトップパソコンが複数ある。
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。**
現状説明	全学の方針に従い、教員・学生ともにコンプライアンス研修に参加している。必要な資料の配布も行っている。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。**
現状説明	個人研究費は前年度業績に応じて適正に配分している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各教員個人研究費申請書等
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❹ 公的研究費の運営・管理（ガイドライン等）が整備され、周知されていますか。**
現状説明	全学で整備されているガイドラインを周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

基準6.　内部質保証

領域：　組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中長期計画	収容率の昨年度数値は、更新しているでしょうか。(20200531) 人間文化学部自己点検評価委員会を中心に、学部として主体的に活動を行えるような体制を構築している。心理学科に関しては昨年度115%の収容率があるため、学部方針に準拠しながらも学科独自に教育研究活動や学生支援活動、地域貢献活動に力を入れていき、内部質保証を高め、ひいては学生募集の恒常的安定化を図る。 ・PDCAサイクルを確立する。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**6-1. 内部質保証の組織体制**
点検項目	**① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。**
現状説明	人間文化学部自己点検評価委員会及び外部による評価委員会により実施されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	sharepoint上で報告書を共有し、学科教員全員で自己点検を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価書（本書類） ②office365学科フォルダ（¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連） ③人間文化学部自己点検評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	現状を維持

2020年度　　nend

中点検項目	**6-2. 内部質保証のための自己点検・評価**
点検項目	**① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。**
現状説明	自己点検は毎年全学の自己点検評価スケジュールに沿って、学科教員全員が関わって自己点検報告書・計画書を作成している。またその内容を学科教員全員で確認し、学科会議で承認している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価書 ②office365学科フォルダ（¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連） ③学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。**
現状説明	IRの活用について学科会議で話し合われているが、十分にIRを活用したデータ収集、分析を実施しているとは言い難い。
年度目標	全学のIRに加えて、学科独自に公認心理師制度に関するデータ収集と分析を充実させる。
年度報告	公認心理師養成大学として実習と研究の両立の在り方について議論した。その他、公認心理師の養成が本格化するにあたってカリキュラムを再度見直すためにカリキュラムWGを立ち上げた他、各種資料を収集しクラウド上にて共有した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第7回学科会議議事録並びに，学科sharepointファイル：ゼミ選択案20210210 ②Cabinet karinフォルダ ＞ 日常業務 ＞ 大学教学組織 ＞ 学科 ＞ 心理学科 ＞ 公認心理師＞実習関係
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**6-3. 内部質保証の機能性**
点検項目	**① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。**
現状説明	自己点検結果に基づいて改善策を学科会議で検討・実施しているが、機能性の検証はされているとは言い難い。
年度目標	PDCAサイクルの検証方法を検討する。
年度報告	2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、自己点検評価を行っている。自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価書（本書類） ②office365学科フォルダ（¥心理学科¥ドキュメント¥自己点検評価書関連）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❷ 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。**
現状説明	FD研修として科研費制度に関する説明会が実施された。また学部教授会でハラスメントに関する事例報告が行われている。学部教授会，学科会議で学部長・学科長から規範順守が要請されている。
年度目標	現状を維持
年度報告	人間文化学部ではコンプライアンス教育（2020年7月8日）並びにハラスメントに関する研修（2020年12月16日）を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第4回人間文化学部教授会議事録 ②第16回人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

基準7.　福山大学ブランディング戦略

領域：　「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価　（本学独自基準）

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中長期計画	これまでのブランディング戦略は備後圏域経済・文化センターの一活動となる。心理学科は協力できるテーマを検討しつつ、「公認心理師」の育成と、「福山大学×犯罪心理学」の推進を2本の柱とし、推進していく。

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進**

点検項目	**❶ 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。**
現状説明	教職員への周知はできているが、学生への周知は十分とは言えない
年度目標	学生への周知を徹底する方法を検討する。
年度報告	学生への周知を徹底する方法は検討できていない。
達成度	B
改善課題	学生への周知を徹底する方法が検討できていない。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	学生への周知を徹底する方法を検討する。
点検項目	**❷ 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。**
現状説明	「子育てステーション」、「ひなた教室」、「地域安全マップ活動」、「サイバー防犯ボランティア活動」等の地域に根差したボランティア活動の積極的な推進とともに、地元で活躍することが期待される「公認心理師」の育成や、「福山大学×犯罪心理学」といった福山大学心理学科ならではの魅力を積極的に発信し、社会から選ばれるブランディングを推進する。
年度目標	より効果的な活動形態や発信方法を模索し、推進力をアップさせる。
年度報告	「子育てステーション」、「ひなた教室」、「地域安全マップ活動」、「サイバー防犯ボランティア活動」等，地域に根差したボランティア活動を積極的に推進した。また，地元で活躍する「公認心理師」育成に向けた対策も検討中である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ　2020年8月25日、9月30日、11月９日など ②学科HP　https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/various-volunteer-activities/
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。**
現状説明	心理学科は地域で活躍する人材育成を目標としており、地域における学生のボランティア活動、社会連携、地域で働く心理職を講師として招くなどをしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	PACE福山支部による「地域安全マップづくり」等の学生による活動を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ　2020年8月25日、9月30日、11月９日など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❹ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	備後地域の知の拠点として包括的な枠組みを整え、現在備後圏域経済・文化研究センターの設立やその内部規定の確定がなされたほか、広島県警察本部生活安全部と福山大学人間文化学部との協働事業契約が締結されている。
年度目標	既存の枠組みを十分に生かし、地域創生への更なる貢献と成果検証を行う。
年度報告	地域防犯のボランティアとして活躍しているＰＡＣＥ福山支部の学生が研修会で発表を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ　2020年8月25日、9月30日、11月９日など
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❺ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	地域で活躍する人材育成の目標を具体化するカリキュラム・ポリシーに基づいたカリキュラムを整備しており、卒業生の卒業後の活躍についても情報収集や情報共有に努めている

年度目標	卒業生の地域社会における教育の成果の情報をより広く収集し、対外的に発信するなどブランディングの強化に取り組む。
年度報告	卒業生の地域社会における教育の成果の情報の収集と対外的な発信は十分とは言えない。
達成度	B
改善課題	卒業生の地域社会における教育の成果の情報を収集する方法が検討できていない。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	卒業生の地域社会における教育の成果の情報を収集する方法を検討する。
点検項目	**❻ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	教員及びゼミ活動で、地域連携に取り組んでいるが、成果の検証は十分ではない。
年度目標	よりよい成果の検証の方法を検討していく。
年度報告	教員およびゼミ活動で地域連携に取り組んでいるが，よりよい成果の検証の方法は検討できていない。
達成度	B
改善課題	成果の検証方法が検討できていない。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	地域連携への取り組みについて，よりよい成果の検証方法を検討する。
点検項目	**❼ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。**
現状説明	学部の学生サポーター活動、心理学科独自のボランティア活動、ゼミ活動を通じて全人教育に取り組み、心理学課題実習及び卒業ゼミの評価基準に加え、成果の検証としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	学部の学生サポーター活動、心理学科独自のボランティア活動、ゼミ活動を通じて全人教育に取り組み、心理学課題実習及び卒業ゼミの評価基準に加え、成果の検証としている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録（4月、7月、8月）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❽ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取組んでいますか。**
現状説明	教員及び学生が心理学科独自の社会連携活動を実施し、対外的に発信することで、活動実績の向上やメディアにおける露出、各種助成金の獲得や感謝状の授与などを受けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	教員及び学生が心理学科独自の社会連携活動を実施し、対外的に発信した。犯罪心理学研究室の学生が広島県知事表彰を受けた。また，福山市の企業を対象に心理評価に関するコンサルを行い研究結果が学会誌に掲載された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/41873/ ②https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/42768/ ③https://www.fukuyama-u.ac.jp/blog/34031/
次年度の課題と改善の方策	

2020年度　　人間文化学部 心理学科

中点検項目	**7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト**
点検項目	**❶ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。**
現状説明	心理学科と全学的なブランディングとの関連性が明確ではないため、現在は取り組んでいない。
年度目標	「瀬戸内の里山・里海学」に直接関連はしないが、心理学科独自のブランディング戦略に基づく研究、実践を進めていく。
年度報告	心理学科独自のブランディング戦略に基づく研究、実践として，ＰＡＣＥ福山支部による「地域安全マップづくり」などの取り組みを行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科HP　https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/various-volunteer-activities/
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	**❷ 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。**
現状説明	学内研究助成金への応募、及び全教員の科研費応募に取り組んでいる。また、「福山大学×犯罪心理学」に関しては、学内の研究・教育支援基金も立ち上げ、広く資金を募っている。「ひなた教室」「子ども遊び広場」については、外部資金を獲得している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状維持。「福山大学×犯罪心理学」については、学内の研究・教育支援基金（犯罪心理学を応用した安全・安心まちづくりプロジェクト基金）も立ち上げ、広く資金を募っている。ひなた教室」「子ども遊び広場」については、外部資金を獲得している。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度　子ども遊び広場　報告書 ②学長室ブログ　2020.8.25
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	**❸ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。**
現状説明	学術雑誌や紀要への論文及び国内外の学会における研究発表に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持。
年度報告	学術雑誌や紀要への論文及び国内外の学会における研究発表を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology_faculty-member/
次年度の課題と改善の方策	